

## 標準委員会 第28回基盤応用・廃炉技術専門部会議事録

1. 日 時 2015年5月29日（金） 15：25～16：20
2. 場 所 5東洋海事ビル A+B 会議室
3. 出席者（敬称略）
  - （出席委員） 萩原（部会長），越塚（副部会長），吉田（幹事），石川，上野，奥田，北島，坂本（途中退室），佐田，宿谷，田中，西田，沼田，日比，宮坂（15名）
  - （代理委員） 桑島正樹（東京電力株／伊藤代理），大島宏之（日本原子力研究開発機構／堺代理），中瀬辰男（関西電力／藤井代理），平尾好弘（途中から，海上技術安全研究所／坂本代理）（4名）
  - （欠席委員） 岡本，山口（2名）
  - （常時参加登録候補者） 工藤（1名）
  - （説明者） [シミュレーションの信頼性分科会] 中田耕太郎（主査），田中正暁（幹事）（2名）
  - （事務局） 中越，谷井（2名）

### 4. 配付資料

- ATC28-0 議事次第
- ATC28-1 前回議事録（案）
- ATC28-2 人事について
- ATC28-3 「シミュレーションの信頼性確保に関するガイドライン 201X」の概要の英訳の修正について
- ATC28-4 「発電用原子炉施設の安全解析における放出源の有効高さを求めるための風洞実験  
実施基準」の5年毎の改定・廃止の要否の検討結果
- ATC28-5 「放射線遮へい計算のための線量換算係数」の5年毎の改定・廃止の要否の検討結果について
- ATC28-6 基盤・応用技術専門部会 標準策定5ヵ年計画(案)
- ATC28-7-1 標準委員会 運営内規（平成26年12月改正）
- ATC28-7-2 標準委員会の活動基本方針
- ATC28-7-3 標準活動基本戦略タスク 運営要領
- ATC28-8 分科会の活動状況について

### 参考資料

- ATC28-参考1 基盤・応用技術専門部会委員名簿
- ATC28-参考2 標準委員会の活動状況

### 5. 議事内容

事務局から開始時点で委員20名中，代理委員を含む18名の出席があり，委員会成立に必要な委員数（14名以上）を満足している旨，報告された。

#### (1) 前回議事録（案）の確認（ATC28-1）

前回議事録（案）について事前に配付されていた内容で承認された。

(2) 人事について (ATC28-2)

事務局からATC28-2に基づき、専門部会及び分科会の人事についてそれぞれ下記の提案があり、審議の結果、承認又は確認された。

1) 専門部会

①委員再任の承認

伊藤 英一郎 東京電力

②委員所属変更の確認

山口 彰 大阪大学→東京大学

③常時参加者登録の承認

工藤 義朗 (原子力規制庁)

④常時参加者登録解除の確認

笠原 文雄 (原子力規制庁)

2) 分科会

①委員退任の確認

放射線遮蔽分科会

播磨 良子 (伊藤忠テクノソリューションズ)

清水 彰直 (NPO法人放射線線量解析ネットワーク)

(3) 【報告・審議】「シミュレーションの信頼性確保に関するガイドライン 201X」の概要の英訳の修正について (ATC28-3)

シミュレーションの信頼性分科会の中田主査から ATC28-3 に基づき、“シミュレーションの信頼性確保に関するガイドライン 201X”の概要の英訳の修正について報告があった。特段のコメント等はなく、審議の結果、概要の英訳の修正は編集上の修正であること及びこの内容を標準委員会で報告することが決議された。

また、田中幹事から米国で開催された ASME V&V シンポジウム (5/11~15) での本ガイドラインの制定状況の発表に関する報告があった。

(4) 【報告・審議】「発電用原子炉施設の安全解析における放出源の有効高さを求めるための風洞実験実施基準」の5年毎の改定・廃止の要否の検討結果について (ATC28-4)

風洞実験実施基準分科会の沼田幹事から ATC28-4 に基づき、“発電用原子炉施設の安全解析における放出源の有効高さを求めるための風洞実験実施基準”の5年毎の改定・廃止の要否の検討結果が報告された。

最新の数値解析工学の知見を反映し、発電用原子炉施設の安全解析における放出源の有効高さを求めるための数値モデル計算実施基準：2011を発行したため、改定要との検討結果であった。

改定事由が明らかたため、15日間の投票に移行することが決議された。

(5) 【報告・審議】「放射線遮へい計算のための線量換算係数」の5年毎の改定・廃止の要否の検討結果について (ATC28-5)

放射線遮蔽分科会の平尾幹事から ATC28-5 に基づき、“放射線遮へい計算のための線量換算係数”の5年毎の改定・廃止の要否の検討結果が報告された。

外部被ばくに関する線量換算係数について2007年のICRP勧告のデータがレポートで公開されているが、国内法への反映が内部被ばくに関する線量係数と同時期と見込まれるため、標準への改定はこれをにらんで行うことにし、今回は改定否との検討結果であった。

特段のコメント等はなく、審議の結果、15日間の投票に移行することが決議された。

(6) 【報告】標準策定5ヵ年計画について (ATC28-6)

事務局からATC28-6に基づき、前回標準委員会で報告した“基盤・応用技術専門部会標準策定スケジュール(案)”について報告があった。主な質疑等は以下のとおり。

Q: 標題“基盤・応用技術専門部会における標準策定スケジュール(案)”を“基盤応用・廃炉技術専門部会における標準策定スケジュール(案)”に修正すること。

A: 拝承。

Q: ”原子力施設の廃止措置の実施: 201X (改定版) “のスケジュール中の欄” 状況 制定 (予定) “では”改定中 (2015年. 予定) “と記載されているのに対して、棒線では制定予定が”2014年12月 “となっており、1年後にずらす必要があるのではないか。

”原子力施設の廃止措置の実施: 201X (改定版) “の制定状況はどうなっているのか。

A: 棒線を、1年後にずらすこととする。

ただし、後で、”原子力施設の廃止措置の実施: 201X (改定版) “は平成26年12月12日に制定されたことが判明したため、棒線を1年後にずらす必要はないが、欄” 状況 制定 (予定) “の記載を”制定 (2014年. 12) “に修正することとなった。

(7) 【報告】標準委員会運営について (ATC28-7-1, ATC28-7-2, ATC28-7-3)

事務局からATC28-7-1, ATC28-7-2及びATC28-7-3に基づき、平成27年3月13日に改正又は制定した“標準委員会 運営内規 (平成26年12月改正) ”, “標準委員会の活動基本方針 “及び”標準活動基本戦略タスク運営要領 “について報告があった。主な質疑等は以下のとおり。

・“標準策定5ヵ年計画(案) (ATC28-6) “に関して、表題を現在の専門部会名に修正するとともに、状況制定 (予定) の欄の記述については最新の情報に修正することとなった。

・“標準委員会の活動基本方針 “の p. 5 において、原子燃料サイクル専門部会の担当に「原子炉の廃止措置」の記述があるが、これは基盤応用・廃炉技術専門部会の担当と思われるので、削除すべきではないかとの意見があり、タスクに提案することとなった。

・“標準委員会の活動基本方針 “の p. 5 において、基盤応用・廃炉技術専門部会の担当に関する「福島第一原子力発電所の廃炉に関わる手順、・・・」の記述について、本専門部会の担当となった経緯について質問があり、タスクに問い合わせることとなった。

6. その他

(1) 次回第29回基盤応用・廃炉技術専門部会は、9月14日 (月) 13:30から開催することになった。

上